

平成28年度 第1回始良市立図書館協議会会議録

日 時 及 び 場 所	平成28年8月25日 (木) 10:00～11:10 始良市立中央図書館 研修室
出 席 委 員	森園 太介、米森 一孝、吉川 成子、近野 一子、 肝付 いずみ、山元 一八、蔵園 敦子
<p>1 委嘱状交付</p> <p>2 開 会</p> <p>3 館長挨拶</p> <p>4 協議会委員・職員自己紹介</p> <p>5 会長・副会長選出</p> <p>6 会長挨拶</p> <p>7 報告・協議 (10:16～)</p> <p>○報 告</p> <p>(1) 図書館の現状、事業及び予算について</p> <p>(2) 図書館の運営方針及び施策について</p> <p>○質問・意見</p> <p>(1)について・・・</p> <p>(近野委員) 10 ページの図書購入基金積立金、今現在どのくらいあるんですか。</p> <p>(事務局側) 平成27年度末で、基金額の計が55,71万円です</p> <p>(2)について・・・</p> <p>(蔵園委員) 『読書活動の充実』について。昨年度の資料によると「図書館ボランティアの育成」とあったところが「図書館ボランティアとの連携」と変換してる点はどういう意味があるんでしょうか。図書館ボランティアが充実していらっしゃる(ので、)重点的に連携がポイントで、講座ないしボランティアの募集等はもうクリアしたというニュアンスでよろしいんでしょうか。</p> <p>(森園会長) 育成から連携に変わったということで(よろしいんでしょうか)</p>	

(事務局側) 今、ボランティアグループあいあいさんがされていらっしゃるんですが、最近、研修や色々なことをご自分たちでされていて、図書館の方で育成をするという所はもう過ぎているという状況にあるみたいですね。あと連携の方は、色々な連携をとって行かなくちゃいけないので、言葉としましては育成から連携と。対等な立場で連携していきたいということで文言を変えているという形です。

(森園会長) 先日、くりの図書館に視察に行かせていただいたその時に、くりの図書館の施策として、読まれなくなった本を一定期間で利用者の方々に無償でさしあげる活動をされているとお聞きしました。丁度、行った時にも、入り口の所に数百冊置いてあった。本市ではそのような活動はしていないのでしょうか。

(事務局側) 始良の方では、図書館フェスティバルが11月3日にあるんです。そちらの方に、廃棄された図書について無償で持って行っていただくと。日常的に、置いておいてということはしていません。

(肝付委員) リクエストした本が、まず一番最初リクエストした人から今までは借りれたんですけど、それが入ったかどうかリクエストした本人が今はわからないんです。図書館に来て、(新着本の出される)水曜日に見れば、リクエストが叶ったかどうか分かるんですけど、今までは一番にリクエストしたものは借りれたんですけどもうそれは借りれなくなった上に、リクエストが叶ったかどうか分からない状態になっていると思うんですがいかがでしょうか。そしてもう一回、リクエストした本を誰かが借りているので、また予約をしないと借りれないんですね。リクエストした本が入ったかどうか分からず、他の人が借りられたらいつ借りられるかどうか分からない。また予約をしなきゃいけない。二重のことをしなきゃいけないので、もうリクエストをしてもどうなっているのか分からないので、これについても変えていただけたらなと。

(森園会長) 要望という形ですね。リクエストと同時に予約まで出来たらということですかね。

(肝付委員) リクエストした本人に連絡が来ないので、どうなったかも分からない。入ったかどうか分からないので、それだけ教えてください。

(事務局側) 昨年度からそういう方式を取らせていただくようになりました。以前は予約とリクエストというのが一緒になっていた訳です。リクエストの考え方というのが、「この本を蔵書の中に加えていただけたら、たくさんの方に読んでいただける、また価値のある本です」ということで、「蔵書構成の中に(加えることを)考えていただけませんか」というところからリクエストというものは始まっているわけです。今までがリクエストと予約が一緒になっていたという関係で、そしてまた最初に電話連絡して、来まし

たよということで一番に借りられるということで、自分が読みたい本を図書館に買ってもらって一番に読めると、利用者の方々がですね図書館の蔵書構成を考えてというよりも一個人としての要望分になってきてまして、リクエストの内容を見たときに、傾向が偏ってしまっているということがございまして。そして今、昨年度なども特に大きく新聞で取り上げられてきておりますが、図書館がそのような形でリクエストに応じて新刊の本を提供しているということによって、出版界の不況というようなことも取り上げられて、本によってはこの本を何ヶ月間かは図書館で貸出禁止にしてほしいということも書いてある本もあつたりします。今、社会情勢なども考えまして、予約とリクエスト、購入希望というのを分けた方がいいのではないかとということで、分けさせていただきました。本人にご連絡（しない）というのは、ホームページを見ていただくか、図書館でも掲示板でご案内をしているところです。それを見ないと分からないという部分はあるんですけど、他館等をみますと、購入希望ということでリクエスト出されたのを紙媒体で置いて（購入されたか）見るというような、自分で確認をして予約を入れるというところもだんだんと増えてきている状況にあるようです。そのような形で、多少、以前からすると不自由に感じられるところもあると思うんですが、サービス提供のあり方を、どのようにしたら市民の皆様に、公平平等というのはなかなか出来ないことなんですが、できるかなというところで変えさせていただいたところでした。ですので今の状況では購入希望された場合は館内の、月に二回ですね、水曜日に発表いたします購入状況ですね。それからホームページでそちらの方ご覧いただけるようになってますので、ご確認をさせていただいて、改めて予約を出していただく形になりました。ご理解いただければと思っておりました。

8 その他

（吉川委員） 先ほど館長さんのお話にもありました、有川まゆみさんの講演。私も行くつもりでおったんですけど、そのとき都合が悪くなって行けなかったんですが、どんな感じだったのかなというのをお聞きしたいんですけども。教えていただけるかなと。

（事務局側） 内容は、講師のご希望がありまして、質問をする形で進めさせていただきました。満席に近い、当日は欠席等もありまして、100・・・90数名の参加者でした。内容は、どのようにしたら自分の生き方、夢であったり希望について、自分の心の持ち方またはそれに向かってどのような自分なりの目標設定をしてトライしていったらいいかというようなこととお話させていただきました。参加者の方からはそういう形がすごくよかったとか、有川先生のお話に元気をもらったとか、また自分の夢に向かって頑張っていきたいとか、色々と不満があつたりくすぶつたりする自分を変えるきっかけを掴めたというような感想が聞かれました。当日は図書館のほうで

有川先生の著書なども舞台上にも出して、また開催前にDVDを、著書の紹介などもいたしまして、講演の方は終わりました。

(吉川委員) いい講演だったんじゃないかなと思って。

(事務局側) 山元委員のほうにはご出席いただいて、ありがとうございました。

(山元委員) 私も感想を申し上げさせていただきたいと思いますが。一般的に講演会といいますと、一人の講師が多く聴衆に対して一方通行の講演になるわけですが、大変ユニークな質問をしてくれたりして、非常にユニークな講演会ですね。聴衆も非常に入りやすい、聞きやすい。畏まって拝聴する、承るといいうのではない講演会です。障害者差別解消法というのでも施行されているわけですが、障害者の観点からも、フロアの方からもそんな質疑や意見がありましたし、内容も大変すばらしい内容でした。アンケートにも書いたんですが、司会進行をされた方、それから講演会のセットをされた本館の館長さん、多くの方にお礼を申し上げたいと思います。非常に内容も濃いいし、よく心に沁みる講演会だったと。拝聴をする式の一方的な講演会ではなかったと。こういう講演会だったらもっと皆がたくさん聞けるんじゃないかなと、そんな感じで、お礼を申し上げたいと思います。

(今野委員) 昨日、加治木図書館と蒲生図書館を覗いてみようと、どんな利用者があるんだろうと行ってみました。自分はもう子育てが終わって30年ぐらい経って、加治木図書館は本当30年ぶりだったんですけど、昔は「蔵の中に入っていくぞ」という感じだったんですけど、とても明るくて、使い勝手がいいというか、たくさんの方がいらっちゃって、その中親子さんに話しかけてみたら、「重富なんだけど、ここがすごく利用しやすい。中央図書館もあるんだけど、ちょっと4歳の子どもには広すぎて。ここが使い勝手がとてもいい」ということをお聞きしまして。わあっと思いがらですね。で、駐車場に停めて(道路を)渡ろうとした時、あそこで迷ったんです。加治木高校の信号に行くべきか、坂を下りきってあそこの信号に行くべきか、ここを突っ切るべきか。ちょっと距離が右も左もあるので、何かこの押しボタン式でも要請・・・幼稚園もあるしなど。そういう思いで帰ることでした。蒲生の方は、蒲生公民館の中に図書館があるという感じなので、何か隅っこに追いやられてるっていう感じで、図書館に辿り着くのに「ここが図書館なの？」っていう感じで、ちょっとさびしくなるような。だから、ロビーの所にでも図書館を置かしたら明るくて、利用者が多いんじゃないのかな。とにかく、二階の一番隅っこのくじらのところですよ。もしロビーの所がダメならば、お部屋がいくつもあって、空いてるお部屋がたくさんあるのに、これが年中詰まるというわけじゃなさそうだったなと思って。ちょっとこう、図書館っていう雰囲気作りが・・・。司書の先生がいらっやいましたので「どうですか」と言ったら、「そうなんですよね」とって声にならない声を聞きながら帰ってきたところでした。

もしそういうところが改善できたら、蒲生は昔から優秀な方が出られる地域ですので、もうちょっとそこら辺も図書館のあり方、場の作り方、提供の仕方、そういうのがあってもいいのかなど。

(森園会長) 今、ご意見もありましたので、またその辺りについては各地域の図書館の運営面で、色々ご指導いただければと思います。

(肝付委員) 私は図書館ボランティアをずっとしているものですがけれども、前回のボランティアの時に、一人の女の子が本当に一つ一つ、ありがとうありがとうって言って、本を読む度にありがとうって言うてくれて、最後に「図書館があってよかった」って。3つか4つくらいの女の子がそう言いました。そんな子たちも、ここがいい場所になってるんだなって嬉しい気持ちでした。17年こちらの図書館でボランティアをしておりますけれども、始めた当初、リピーターの方が多くて、赤ちゃんから幼稚園、小学生になるまでずっと同じ子たちがやってくるというのが多かったのですが、今は本当に一見さんだったり、初めて来るって子たちが多いんですけれども、私たちのスキルがもっと上がれば「また来たいね」っていう風になるんじゃないかなと思っているところです。始良市は子どもがどんどん増えて、大きなまちになりつつあります。その中で若いお母さんたちも多くて。今まででは無かったんですけども、30分間のおはなし会をじっと聞いておくことがなかなかできなくて途中で帰っちゃう子どもたちや、お母さんたちが自分の都合でもう帰りましょうって言って帰っちゃう場合があるので、私たちはそこで30分おはなし会聞いてねって風には言うてはいるんですが。そこが図書館でのおはなし会の難しさかなって思いつつ、試行錯誤、葛藤をしながらやっているところですが。図書館がここにあってよかったなあって言う子どもの声が本当とても嬉しくて、皆さんに伝えたいなと思ってお話しました。

(森園会長) ありがとうございます。ボランティア冥利に尽きるってところじゃないかなってですね。

(肝付委員) はい。

(山元委員) 二点ほど。一点は、ものがたりレシピですね。これは本市の図書館の代表的な大きな活動だろうと思います。これが小中学校と連携をして、また調理担当の方々、それから栄養士さん、学校の給食担当の先生、各担任の先生方、あるいは市役所で言いますと保健体育課、学校教育課ですね。それぞれの携わっている皆様のご協力がないとできないだろうと。本当にご苦労が多いだろうと思いますが。あちこちで「おはんは始良に住みよたつてなあ。ものがたりレシピっちうのをちらっち見たど」とよく質問を受けます。本館の各歴代の先輩の方々が、非常にご苦労があったかと思いますが、ぜひこれはまた続けていただきたいと思います。それから私は色んな

講演活動で、老人クラブに行ったり、PTA、小中学校の日曜参観、それから最近幼稚園からの依頼も多いんですが、この話題の中で関係機関、幼稚園に対するアプローチは無いんだろうかなど。小学校中学校との連携というのは伺いますけれども。それから、蒲生の認定子ども園に行かせていただいて。それから帖佐幼稚園とかですね。図書館との連携というのがあまり伝わってこなかったものですから、幼稚園さん、あるいは保育園さんとの、ここでの色んな行事はあるわけですが、関係機関との連携っていうのは、そっちの方はどうなっているんだろうかということですね。もう一点はさっきありました、有川先生のトーク形式の講演がとにかく良かったと思います。内容は、幸せになる働き方という演題でございましたけども、拝聴して「一丁やってみようか」と。また女性参画の社会のあり方っていうのもありましたけど、とにかくやりたいことをやる、やってることを好きになるという。それとこれは私たちが小学校も中学校も幼稚園も保育園もそうですが、その人物の存在を認めてやりましょうよと、それから褒めてやりましょうよと。そのことが必ずその人の自信につながりますよと。本館の3つの理念、子どもたちが未来を拓くってのがありましたけど、子どもたちが自分で自信を持つようになる。それは子どもだけでなく大人も思い悩んでいる、一人で悶々と悩んでいる。そういう人たちもいっぱいいるわけで。有川さんのトークの中に、認めやる。大きなことだけじゃなくて小さなことでも、認めてやりましょうと、褒めてやりましょうと、そして自信を持ってもらいましょうと。これは必ず役に立ちますと。立ち上がっていくと思いますよというような内容の講演だったと思うんですね。大変ありがたい、ユニークな。進行の方も大変すばらしかったと思いますね。要するに、やろうとしない、やる気がない、やらない人、いろいろな人がいますが、とりあえず5分間やりましょうよと。ちょっとしたすぐりがですね、聴衆を少しずつ自信を持たせるようだった、いい講演だったと、お礼を申し上げます。

(森園会長) 幼稚園とか保育園の連携に関しましては、あいあい号をされたりしているようですので、そういったところで何か連携を深めていけたらなあという風に思います。

(米森委員) 学校では図書室の方で司書補の方が図書だよりを出して啓発活動をしています。その他にも、委員会活動とかいろんな取り組みをして、子どもたちに本に慣れ親しんでもらおうという取り組みをしてるんですけども。今うちの学校で話題になっているのが、子どもたちに本を読ませるために保護者の方にも何とか本に親しんでもらいたいということで、本年度PTAの方でPTAの図書購入簿という話が出たところなんですけども。予算はあるんですけども、その先が進んでいないという状態で、この先どうやって大人の方に啓発をしていくかというのが私たちの課題なところで

す。そうした中で、毎月図書館の方から3つの図書館だよりをいただいて、図書を紹介について2冊、面白そうだなと思って購入したものがありません。じゃあこういうのを、自分たちだけじゃなくて、保護者の方に何とか広めていけたらいいなど。いただいたものを自分がどう活用しようかなど、今話を聞きながら考えていたんですけれども。今後、こうやって折角いただきますので、図書室に掲示するとか、PTAの方で紹介するとか、保護者一人一人には渡っていない状態ですので、そこを何とか工夫していきたいと思います。

(蔵園委員) 私も個人的に、図書館だよりを見るにあたって、加治木図書館の「あいらよかところ」を冊子っぽくして、壁新聞的にシリーズ化しても面白いのかなど。片隅にいつもいい感じで抜粋してくださっているの、全部図書を読む力量と根性はない方でも、このくらいだったらというスペースなので、自分たちの身の回りの地域の歴史なりいわれとかそういうものに関心を持ってもらうためにも良いのかなって。こういうのをルーズリーフ的にファイルしてまとめたいなと思ってるところでした。私もこの図書館だよりを個人的に利用させていただいて、驚きと、あと広報に載る本の紹介等も、なるほど。要所要所をきちんと見てまとめてくださっているの、ブックトーク等もありますけど、自分たちが身近な中で本に親しむのは、まず自分の身近なところからスタートするのが一番かなと思って利用させていただいています。中高生が読書離れって言うことですが、今は携帯で小説を書く時代になってるようで、身近な(人が)本を出したとか、ケータイ小説出したとか、出版してるお子さんがいたり。そういうお子さんは読むお子さんでした。いい図書を紹介してくださって、受験等でも本は離さずっていう生活をなさってたお嬢さんがいて。読書ばなれっていわれても、形態を介してみんな何かしらものを書くとかいうところに携わってるんだなって発見もつい先日ありまして。図書館が目に見えて実感はないでしょうけど、皆さんの小さな努力が少なからず身近に実を結んでる結果はあるのかなと思います。本を読むことの大切さを伝えていってくださってるからこそ、そういう形として残っているという。嬉しいなと思うところでした。

(森園会長) 図書館だよりというのは誰がどのように見るかというのは分からないものですが、こういったボディブローのように、読書好きが増えるといいなと思うところです。